Kashiwa GIGA Practical Cases

１人１台端末
活用事例リーフレット
２０２３

柏市教育委員会

本リーフレットに掲載されている事例は，柏市の教職員からなる【１人１台端末を活用した授業改善検討委員会】のメンバーによって作成したものです。
「情報活用能力を育成する授業をデザインし，柏市全体の１歩先を行く実践研究を行い，周知を行う。」「１年研究を推進する中で，児童生徒にどのような変容があるか検証する。という目標のもと授業計画及び実践を行い，その事例を掲載しています。
指導案等の詳細は「柏市 GIGAWeb」に掲載してあります。ぜひご活用ください。

※活用しているソフトウェア名については紙面の都合上，正式名称の略称で記載していることを申し添えます。

小５　国語　AI との暮らし

クラスルーム　Jamboard
コラボノート

○テーマに関しての利点の立場・問題点の立場から意見を述べる活動の中でどのように資料を相手に提示したら説得力があるのか，目的意識をもちながら情報を収集し，根拠をもって自らの考えを組み立て，分かりやすく相手に伝える。
○Jamboard を使って主張の根拠や理由を，文書やグラフなどの資料を詳しく表していく。

実践者　桑澤　淳

実践を終えて
・社会科等でも自分たちで情報を集めて必要な情報を整理していく経験を積んだので，単元をスムーズに進めることができた。
・グループで相手への質問や反論を考えることで，その後のミニディベートも活発になった。
・自己評価を見ると８割程度の児童がこの単元の学習に満足感をもって行うことができたことがわかった。

小５　総合　私たちの SDGs

Canva　スライド
Jamboard

○SDGs というテーマに対して，いろいろな教科や学習から考える取り組みを行っている。その中で感じた『自分事として捉えられていない部分』について，低学年でも理解が深まる資料を作る。
○SDGs に関わる課題や自分が取り組めそうなことを，Jamboard を使って整理し，Canva やスライドを使って資料を作った。作ったものは二次元コードにして学校の関係する場所に掲示した。

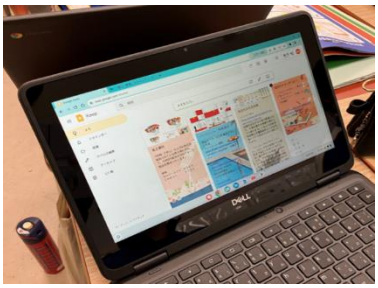
実践を終えて
・アンケート結果から児童が端末を使うことで学習意欲が高まっている。自分の考えも端末を使うことで友達に伝えやすくなったり，理解しやすくなったりする。
・休み時間に集まって資料を作成する姿が見られるなど，主体的に学習する場面が多く見られた。これらのことから，端末を活用することで意欲の向上だけでなく，資料を修正したり整理したりする力が身につく。
・児童が自ら情報を取捨選択できるよう，教師側がいろいろな手立てや方法を提示しておくことが必要である。

実践者　森下　真大

中３　社会

私たちの暮らしと経済
－生産と労働

Google Keep　Google サイト
スライド　Adobe Express



○政治分野に対する理解を深めるために株式会社の仕組みを体験的に学ぶ。Google Keep を使って集めた情報を共有したり，意見を追記したりすることでグループのプレゼンテーション用資料を整理分析することができる。

○Adobe Express を使ってパンフレットやポスターを作ったり，Google スライドを使ってプレゼンテーション資料を作ったりすることで，投資してもらうための材料づくりに役立てた。

実践を終えて

・Google Keep を活用することで，膨大な情報を扱うことができ，様々な情報を各自で調べたうえで，後から役割分担を行い情報の取捨選択を行うことができた。自分の担当外の内容も意識しながらまとめに取りかかることができるので，多面的・多角的考察の一助となった。

・他の単元でも Google Keep を活用したので，生徒自身で日常的に使うシーンが見られ作業のクオリティや効率が上がった。

実践者　石塚　大介

中２　理科

気象の仕組みと天気の変化

Jamboard
スライド

○毎時間，学び合い活動を授業の基本の形とし，提示された学習課題に対して生徒が協働して課題を解決するようにした。課題の解決に向けて，教科書や端末，教師の用意した資料などから情報を収集し，整理分析をしながらまとめる活動を通して，情報活用能力の向上を目指した。

○気圧については，グループで実験内容を考えるところから取り組み，端末を活用しながら結果の記録，まとめ，発表まで行った。

実践を終えて

・日頃の学び合い学習の中で，特に情報の収集について端末を活用した。当初は，課題についてすぐにインターネット検索をする生徒が多くいたが，次第に多くの情報から得たい情報を効率よく集めるためにインターネット以外のツールを活用するようになり，「情報を収集する力」の向上が見られた。

・情報活用能力の育成に向けては，「何を使うか」ではなく「何をするか」を教師が意識し，何を使うかは生徒の発想に任せた方が，学びはより主体的で深いものになると感じた。

実践者　三原　学

【１人１台端末を活用した授業改善検討委員会】

〈委員長〉

柏市立大津ケ丘第一小学校　　佐和　伸明

〈委員〉

柏市立柏第一小学校	桑澤　　淳
柏市立高田小学校	森下　真大
柏市立柏第四中学校	石塚　大介
柏市立南部中学校	三原　　学

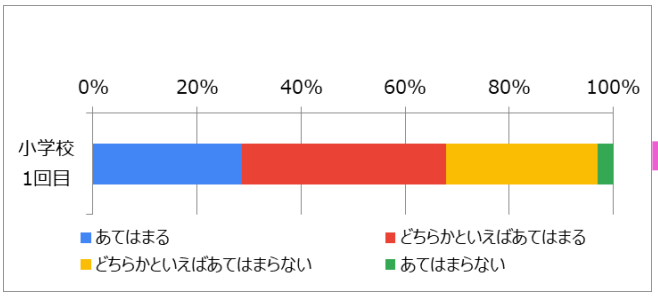
〈事務局〉

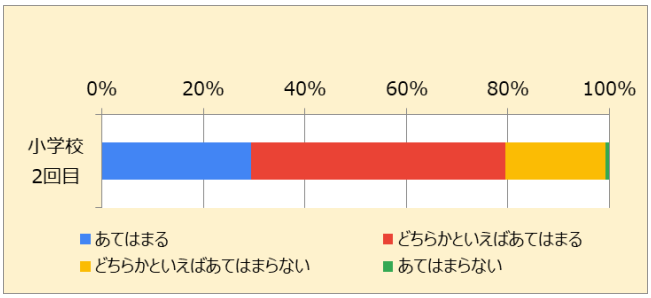
柏市教育委員会　学校教育部　指導課

情報活用能力の育成の観点から（振り返りアンケート　一部抜粋）

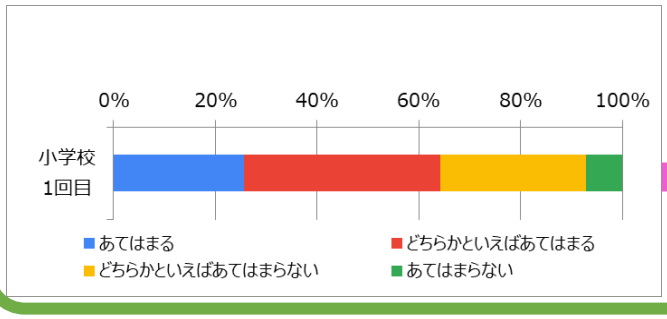
小学校

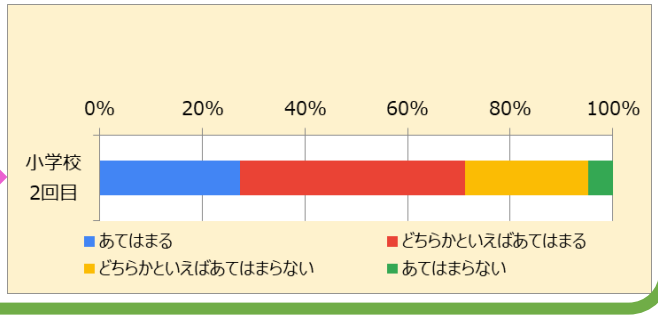
得た情報に対して，２つ以上の見方をして，特徴や変化を見つけることは得意である。（情報の収集）





情報をどう使うかの目的に合わせて，自分でどう区別するか，どう調べるかを考えて，
表やグラフなどを使って整理することは得意である。（整理・分析）

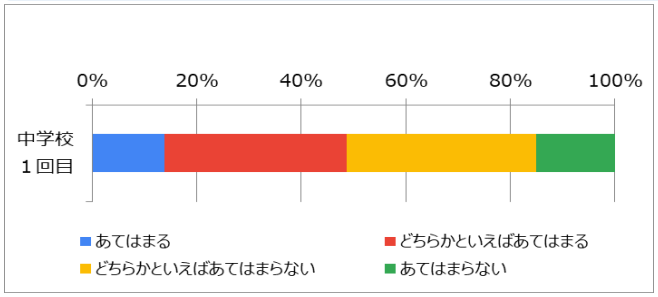


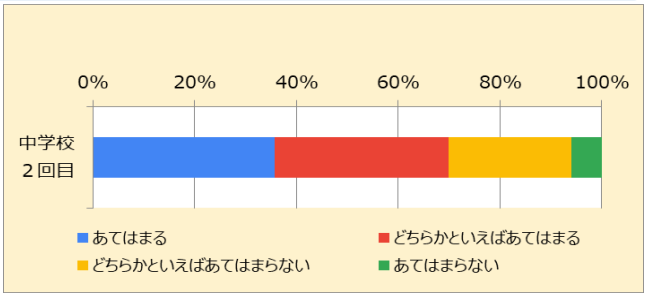


小学校の実践では，複数の情報を整理・分析し，どのような特徴があるのか捉えることや，得た情報を目的に合わせて表やグラフを使って整理することが得意となったことが読み取れる。

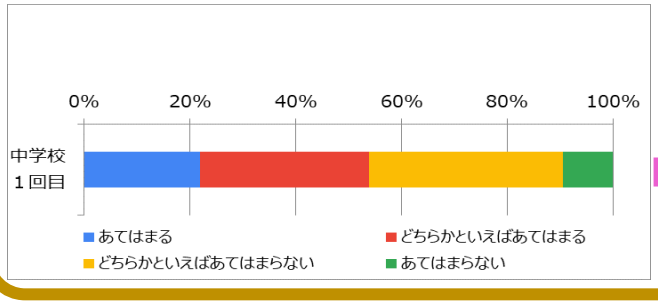
中学校

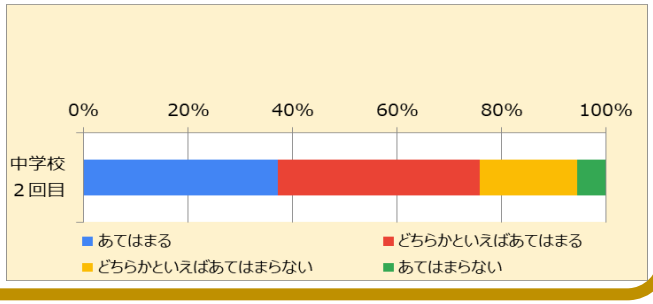
集めた情報を，複数の視点からつながりや構造を図に表して整理することは得意である。（整理・分析）





学習の目的や自分がしたいことに合わせて絵や写真，言葉や音などいくつかの表し方を組み合わせ，
プレゼンを聞く人との質問や答えなどを含んだプレゼンをすることは得意である。（まとめ・表現）





中学校の実践では，複数の視点からつながりや構造を図に表して整理したり，より伝わりやすいプレゼンテーションを行ったりすることが得意となったことが読み取れる。